

凸版印刷、2年連続で「攻めのIT経営銘柄2019」に選定

新たなデジタル技術活用によるビジネス革新が評価され「攻めのIT経営銘柄2019」に2年連続で選定
印刷テクノロジーをベースとしたIT活用で、新たな社会的価値を創造

凸版印刷株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:金子眞吾、以下 凸版印刷)は、経済産業省と東京証券取引所が共同で実施する「攻めのIT経営銘柄2019」に、2年連続で選定されました。

「攻めのIT経営銘柄」は、東京証券取引所の上場会社の中から新たな価値の創造、経営革新、収益水準・生産性の向上をもたらす積極的なIT利活用に取り組んでいる企業を選定・公表しているものです。

凸版印刷は、印刷テクノロジーをベースとして、ビジネスと社内業務両面でのデジタル変革を実行する「T-DX(トッパン・デジタルトランスフォーメーション)」を中長期的な成長戦略としており、企業価値向上に寄与する新デジタル技術の活用と既存事業の枠を超えたソリューション提供が高く評価されました。



攻めのIT経営銘柄2019

Competitive IT Strategy Company

■攻めのIT経営に向けた主な取り組み

1) 製造業向けDXソリューションの提供

凸版印刷は、製造業として自らものづくりのデジタル変革に取り組んできた知見をもとに、製造業向けのDXソリューション「NAVINECT™」の提供を開始。IoTによる生産・品質データの取得、利活用を通じた現場の見える化と作業改善を支援しています。

多方面の業界・業種のお客さまとの長年の取引で培った「セキュリティ管理力」、「システムコーディネータ力」、「デジタル技術力」に加え、「戦略的なデータ利活用力」を集結し、お客さまの事業に合わせたシステム設計から、導入・運用・サポートまでトータルに最適なソリューションを提供します。

2) トッパンVR・デジタルアーカイブを核に、ITを活用した観光立国・地方創生支援事業の推進

凸版印刷は、文化財の「保護・保存」と「活用」の両立という大きな社会課題の解決に寄与するため、デジタル技術を活用した文化財のアーカイブやVRによる公開を進めています。また、日本各地にある国宝や重要文化財、観光資源の魅力をデジタルによる先端表現技術で世界に発信する共創拠点「NIPPON GALLERY TABIDO MARUNOUCHI」を新設し、デジタル技術を活用した新事業共創に向けた戦略検討を始めています。

今後も、凸版印刷は「印刷テクノロジーで世界を変える」をキーワードに、最新デジタル技術の積極的な活用を通じて、社会的課題の解決をはかり、新事業の創出に取り組めます。

* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以 上